

令和8年度石川県動物愛護管理推進協議会 意見交換 議事録

日時： 令和8年8月3日(月) 14:00～16:00

場所： 石川県庁行政庁舎11階 1109会議室

<桐畑委員>

- ・多頭飼養届出の活用状況について聞く。
- ・新しい飼い主探し掲示板の活用状況を聞く。飼育できなくなったという相談は高齢者からが多いのか。

→ (事務局)

- ・多頭飼育届出については、普及啓発や助言を行うことに活用している。能登半島地震の際に実施したアンケートでは、仮設住宅で飼育の方法に困っている等のご意見をいただき、助言を行った。
- ・「新しい飼い主探し掲示板」については、今年度、猫においても譲渡の実績がある。掲示板について周知が必要である。
- ・相談は、高齢者本人の場合もあるが、親族からの場合もある。

<桐畑委員>

- ・高齢者のペット飼育について、日本で非常に問題になっている。
- ・県が課題として挙げている、「慢性疾患や高齢動物の譲渡先の確保」と、高齢者によるペット飼育の問題は、両輪で考えていかなければならない。
- ・青森県には、動物愛護センターにいる高齢の動物が、最後まで穏やかに家庭で暮らすことができるよう、シニア犬看取りボランティアという制度がある。動物愛護センターに保護されたシニア犬を、看取りを前提として譲り受けるものである。
- ・鳥取市は、保護猫の一時預かり制度を設けており、市の保健所に保護

された猫について、所有権は市に残したまま、生涯に渡って預けるという取組である。

- ・新潟市では、これまで譲渡対象が65歳までだったが、10歳以上の猫に限り、75歳に引き上げている。
- ・これらのようなことを、石川県も考えていかなければならないのではないか。
- ・高齢や疾患のある動物の譲渡先が見つかりにくいという問題は、ボランティア団体も同じである。物価高などもあり、治療費も高額になっているということもあるため、行政と一緒に体制づくりができればと思う。

<宮野副会長>

- ・動物を最後まで看取るということには、相当なお金がかかる。その辺も含めて、他県の事例を把握することが必要である。

<大聖寺谷委員>

- ・学校にてミルクボランティアや譲渡ボランティアを実施しているが、ボランティアにはお金がかかる。寄附を募るなどしているが、個人でボランティアをする場合は大変なのではと思った。

<桐畑委員>

- ・ペットを飼育している高齢者が亡くなった場合に、親族で飼育が困難となると、猫を外に逃がしてしまうことがある。外に逃がしてしまうと、野良猫の数が増える一因となることも課題である。
- ・長野県では、チームTAGというものがあり、様々な関係機関が、福祉の面から、多頭飼育崩壊の予防や早期発見等に連携している事例がある。

<中川委員>

- ・普及啓発について、動物愛護推進員と、地域とのつながりがあまりないのではないかな。
- ・高齢者に向けて、回覧板や SNS にて発信しても見ていただけないことが多い。民生委員や地域包括支援センターなどと連携する方法があるのではないかな。

<松平委員>

- ・環境省が作成する「人とペットの災害対策ガイドライン」が、近く改訂される予定である。
- ・動物愛護管理法やガイドラインについて、一般県民が目にする機会は少ないため、PRしてほしい。

<宮野副会長>

- ・能登半島地震の際に避難所を巡回したが、避難所の管理者によってペットの受入れに関する考えが異なった。
- ・市町と連携して、ペットの受入れ可能な避難所のマップを作るのが良いのではないかな。

<松田委員>

- ・金沢市はペットの同行避難を基本としている。国のガイドラインの見直しの動向をみていきたい。
- ・避難所の開設については、地域防災組織の協力が不可欠であることから、地域の事情も踏まえながら、危機管理部門と連携して取り組んでまいりたい。

<樋口委員(代理:長谷川課参事)>

- ・県立高校では、「総合的探究の時間」があり、生徒が自分自身で、心つかまれるような課題を見つけ、調査研究し、場合によっては社会に提案するという活動をしている。昨年、輪島高校の生徒が、災害時のペット避難について調査し、啓発パンフレットの作成や、犬や猫が食べることができる避難用のおやつのか案などの活動を行っていた。
- ・こうした活動を入口に、動物の終生飼養等の問題について子供たちが学んでいけたらと思う。